

令和4年度山口市美術展覧会講評

大賞

「HOME」

土谷 寛子



とても丁寧に刺された刺繍作品で、シルクスクリーンの技法を取り入れた意欲作。迷彩服姿の守る軍人とウクライナの民族衣装の女性が示す通り、現在起こっている戦争の非情な情勢に対する本来あるべきささやかな「希望」を表現している。男女が抱擁するその様は、クリムトの「接吻」を彷彿とさせる構図であり、永遠の愛と慈しみを刺繍糸の柔らかな色彩で覆っている。早期に平和が戻るのを願ってやまない。そんなやさしさに溢れる作品である。

(上原 一明)

◆ 総評

今年度の出品作品もそれぞれ独自の世界観で表現されており、本展のレベルの高さがうかがえた。現代社会の問題点や日常のささいな出来事、世界情勢に至る多種多様なテーマが広がっており、各作者の真剣な創作態度を感じる事ができた。審査に関しては受賞レベルの作品が多数有り、選定は困難を極めた。今回受賞した部門だけでなく、工芸部門の出品作品にも受賞候補があった。総合的に作品のテーマ性と制作に対する熱意、制作にかけた時間量にはやはり感動があった。それが顕著にみられたのがこれらの受賞作品である。次年度出品者の方々にも引き続き常に新しい視点で物事を捉え、創作経験を積み重ねる事で、新たな自分、新たな独自の世界観を構築される事を期待する。

(審査委員長 上原 一明)

(審査員)

上原 一明	山口大学教育学部教授
倉田 研治	山口県立大学国際文化学部准教授
松田 鶴信	梅光学院大学非常勤講師
藪田 淳子	下関市立美術館副主任

(五十音順・敬称略)

準大賞

「ゾウハドコカラキタノカ
ゾウハドコヘイクノカ」

ゆうむら としこ



「感動しなければ芸術作品ではない」ということばがある。この作品には（古代）魚、ゾウ、カバをはじめ、身近な生き物が画面を悠々と動き回っている。何とユツタリとした時間が流れていることか。小生は、この雰囲気一気にのめり込んでしまったのだ。左右に魚の行列が進行し、その向こうに、ゾウが楽しそうに戯れているではないか。動物と共に暮らした時代が何と懐かしく、憧れる。デザイン化された魚が妙に今の時代によく似合う。審査員一同あなたの発想力と表現力に感動した。

（松田 鶴信）

山口市教育委員会賞

せいめい き
「生命の樹 ペイズリー」

小田 伸次郎



大きな白い布の前に女性の半身像が描かれる。布のペイズリー模様は金泥によって精緻に描写され、工芸的な美しさを見せる。青いストールをまとう女性像は背景からくっきりと浮かび上がり、明るい色彩によって丁寧に描写されている。ペイズリー模様の起源は中近東からインドだとされているが、女性はその地方を思わせるエキゾチックな容貌をしている。「生命の樹」というタイトルに表れているように、ペイズリーの想起させる植物や女性によるみずみずしい生命力が感じられる。

（藪田 淳子）



山口文化協会賞

のうたいぶくろ ふよう
「納体袋—不要。」

井岡 義朋

人物と動物が童画のようにユーモラスに描かれている。だが、背後には大きな髑髏があり、びっしりと記された名前は亡くなった人物やペットのもののようなものである。赤い団扇を掲げる男は動物の顔もつけているが、審判者のように死後の運命を告げているのだろうか。「納体袋—不要。」というタイトルからは、死後の肉体は消滅して不要となり、魂のみが残るといふ死生観がうかがわれる。大胆な筆触と厚塗りの色彩によって、ユニークな「メメント・モリ(死を思え)」となっている。

(藪田 淳子)

おごおり文化協会賞

よき あめ
「予期せぬ雨」

宮内 和子

多量の雨粒が窓ガラスに付着した水滴や汚れなのか、まるで全体にフィルターがかかっているようだ。その効果により、色調は抑えられて淡くフラットな印象になっている。右奥からの太陽光が道路など地面全体に反射しており、画面の中心に電柱があっても強く分断されることなく連続した印象を保っている。所々にあるハイライトはキラキラとアクセントになり、青天の霹靂の持つ高揚感を増幅する。雨と光の交錯によって突然訪れた瞬間を、巧みに捉えた秀作である。



(倉田 研治)

審査員特別賞

あさいち
「朝市にて」

黒田 悌弘

どこにでもありそうな、野菜を売る朝市の光景である。頭巾をつけた年配の女性が、慣れた手つきでネギを包んでいる。周囲には色とりどりの野菜や花が並べられている。人物や野菜の形態はやや単純化されているが、愛情をもってやわらかい筆触でひとつひとつ丹念に描写されている。背景には実際のチラシも貼り付けられ、それらを覆う水彩による複雑なにじみやぼかしの上に、パステルで明るい色彩とアクセントがつけられ、どこか懐かしいような素朴な情景が浮かび上がっている。

(藪田 淳子)



審査員特別賞

し けいとう
「死への傾倒」

響月

丁寧に作られた花卉が、体一面に広がる。死から再生へと向かう瞬間なのか。白と黒の対比が生と死を強く印象付ける。体の造形表現はまだ努力が必要だが、全体的構成は評価に値する。ライティングを工夫すると、より良い作品となるであろう。

(上原 一明)



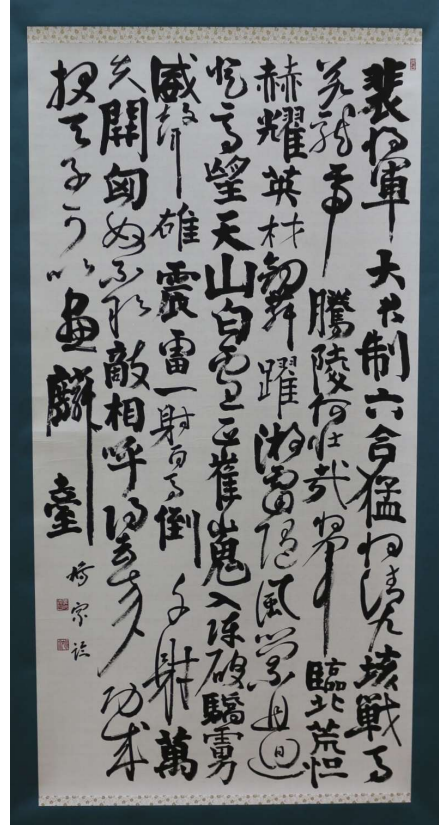
審査員特別賞

りんはいしやうぐんし
「臨裴將軍詩」

眞砂 義明

全紙に一気に書き上げた「裴將軍詩」。見事である。顔真卿の持つ独特な筆法をよく会得しているとともに、文字の造形美も毎回の練習によってスムーズな動きが身に付き、作品に反映されている。文字の大小、墨継ぎ、左右の広がり、上下の流れ、色々な要素が学べるこの書である。が、何と云っても書く時の気持ちを大切にしたいものである。ただ単に形臨ではなく、詩の意味を吟味し、作者の意気を表現したいものだ。これからも、筆墨硯紙を吟味し、更なる向上を目指してください。

(松田 鶴信)



審査員特別賞

「光の方へ」

川部 那萌



暗闇の中に点在する光の周辺では、それぞれの質感が繊細に捉えられ、やがて暗闇へとグラデーションとなり消えていく。日常の空間が、わずかな環境の変化により幻想的に変容している。車のヘッドライトは絶妙なところに留められ、淡い空間の中であって被写体のシルエットがシャープに立ち上がっており、静的な画面構成の中に動的な要素も織り込まれている。いくつもの要素が丁寧に構成され、想像を楽しむ余地のある作品に仕上がっている。

(倉田 研治)

令和4年度山口市美術展覧会受賞者一覧

賞	部門	作品名	作者氏名 (敬称略)	年齢
大賞	絵画	HOME	つちや ひろこ 土谷 寛子	39
準大賞	絵画	ゾウハドコカラキタノカ ゾウハドコヘイクノカ	ゆうむら としこ	—
山口市教育委員会賞	絵画	せいめい き 生命の樹 ペイズリー	おだ しんじろう 小田 伸次郎	72
山口文化協会賞	絵画	のうたいぶくろ ふよう 納体袋—不要。	いおか よしとも 井岡 義朋	80
おごおり文化協会賞	写真	よき あめ 予期せぬ雨	みやうち かずこ 宮内 和子	52
審査員特別賞	絵画	あさいち 朝市にて	くろだ よしひろ 黒田 悌弘	83
//	彫刻	しへの けいとう 死への傾倒	きょうげつ 響月	58
//	書	りんはいしやうぐんし 臨裴將軍詩	まさご よしあき 真砂 義明	58
//	写真	ひかり ほう 光の方へ	かわべ なも 川部 那萌	22

※年齢は3月5日現在
※審査員特別賞は、部門別、作品番号順